

1日

《2022年県内工場立地53件》

県が発表した2022年県内工場立地状況によると、新增設の届け出件数（敷地面積1,000㎡以上）は53件で前年と比べ13件増加した。雇用計画人員は905人（前年比309人減）だった。県は新型コロナウイルス禍で続いていた設備投資の先送り傾向が解消しつつあるとみている。

3日

《楡葉、富岡沖で浮体式洋上風力を計画》

東京ガス（東京都）と信夫山福島電力（福島市）は、楡葉・富岡両町の沖合約20kmで浮体式洋上風力発電事業を実施する計画を発表した。最大出力は約3万kwで、年間発電量は約2万世帯分の消費電力量に相当する。2027年の運用開始を目指しており、電力会社への売電を検討している。

7日

《納豆の購入額、福島市4連覇》

総務省が発表した2022年家計調査（2人以上世帯）によると、福島市の1世帯当たりの納豆購入額は6,949円で、全国の都道府県庁所在地と政令指定都市の中で1位となり、4年連続で首位を守った。

10日

《非日常体験「エクストリームふくしま」発信開始》

非日常を観光資源として展開する「エクストリームツーリズム」について、県は、県内各地のコンテンツを一体的にまとめて発信する取り組みを始めた。雄大な自然環境を誇る本県でしか味わえない刺激的な自然体験やスポーツを国内外にアピールし、エクストリームツーリズムの聖地化を目指す。

15日

《マルト「惣菜・べんとうグランプリ」総合金賞受賞》

マルト（いわき市）が、日本食糧新聞社主催の「ファベックス惣菜・べんとうグランプリ2023」において、初のデリカ総合金賞に輝いた。同社は約3年前から商品開発に力を入れており、

地元食材を生かすとともに高校生らと連携し商品開発も行うなどの取り組みが評価された。

20日

《県内林業産出額119.5億円》

県が発表した本県の2021年林業産出額は119億5千万円（前年比18%増）と東日本大震災後最多で、震災前の9割超まで回復した。県は国産材への代替需要の高まりや、新型コロナウイルス感染症による巣ごもり需要で栽培キノコ類の生産が増えたことなどが要因とみている。

17日

《ヨークベニマル、水素トラック運用開始》

ヨークベニマル（郡山市）が、水素を活用した燃料電池トラックの運用を始めた。県とトヨタ自動車による社会実証の一環であり、郡山市の物流拠点から店舗への商品配送に活用する。

21日

《2022年県貿易概況、輸入額初の1兆円超え》

横浜税関小名浜税関支署は、2022年の県貿易概況（輸出は確報値、輸入は速報値）を発表した。小名浜、相馬両港と福島空港を合わせた輸出額は2,036億円（前年比63.4%増）、輸入額は1兆160億円（同86.5%増）だった。輸入額は電子データによる統計を取り始めた1979年以降で初めて1兆円を超えた。

《双葉、浪江住民意向調査「帰還前向き」過去最高》

復興庁は、東京電力福島第一原発事故後に避難指示が出た地域を対象にした住民意向調査のうち、双葉町と浪江町の結果を公表した。両町とも帰還希望者の割合が前回より上昇し、2012年度から11回実施した調査で過去最高となった。

26日

《サンシャインマラソン、5年ぶり開催》

日本陸連公認フルマラソン大会の「第14回いわきサンシャインマラソン」がいわき市で開かれた。降雪や新型コロナウイルス感染拡大の影響による中止を経て5年ぶりの開催となり、全国各地から集まった市民ランナーが潮風香るいわきの街を駆け抜けた。